

COMPANY PROFILE

- 会社名 市民エネルギーちば株式会社
- 設立 2014年7月2日
- 代表取締役 代表取締役 東 光弘(ひがし みつひろ) 共同代表取締役 椿 茂雄(つばき しげお)
- 資本金 1,000万円(設立時資本金90万円)/従業員数:15名
- 所在地 〒289-2106 千葉県匝瑳市飯塚1037-1 TEL.0479-85-6760 FAX.0479-85-6765
- CSR活動 ◇ソーラシェアリング取組祭 実行委員会 事務局 ◇豊和村つくり協議会 運営参加
◇アースデイちば 実行委員会 運営サポート
- 事業内容 1. 自社発電事業
2. EPC事業(設備設計・施工・管理・保守・コンサルタント)
3. 開発/販売事業(各種専用部品・機器・システムの開発及び販売&リース)
4. ソフト事業(イベント&セミナー企画、講師派遣、インターン受け入れ等)

MIN·ENE



Share the GIFT from the SUN !!

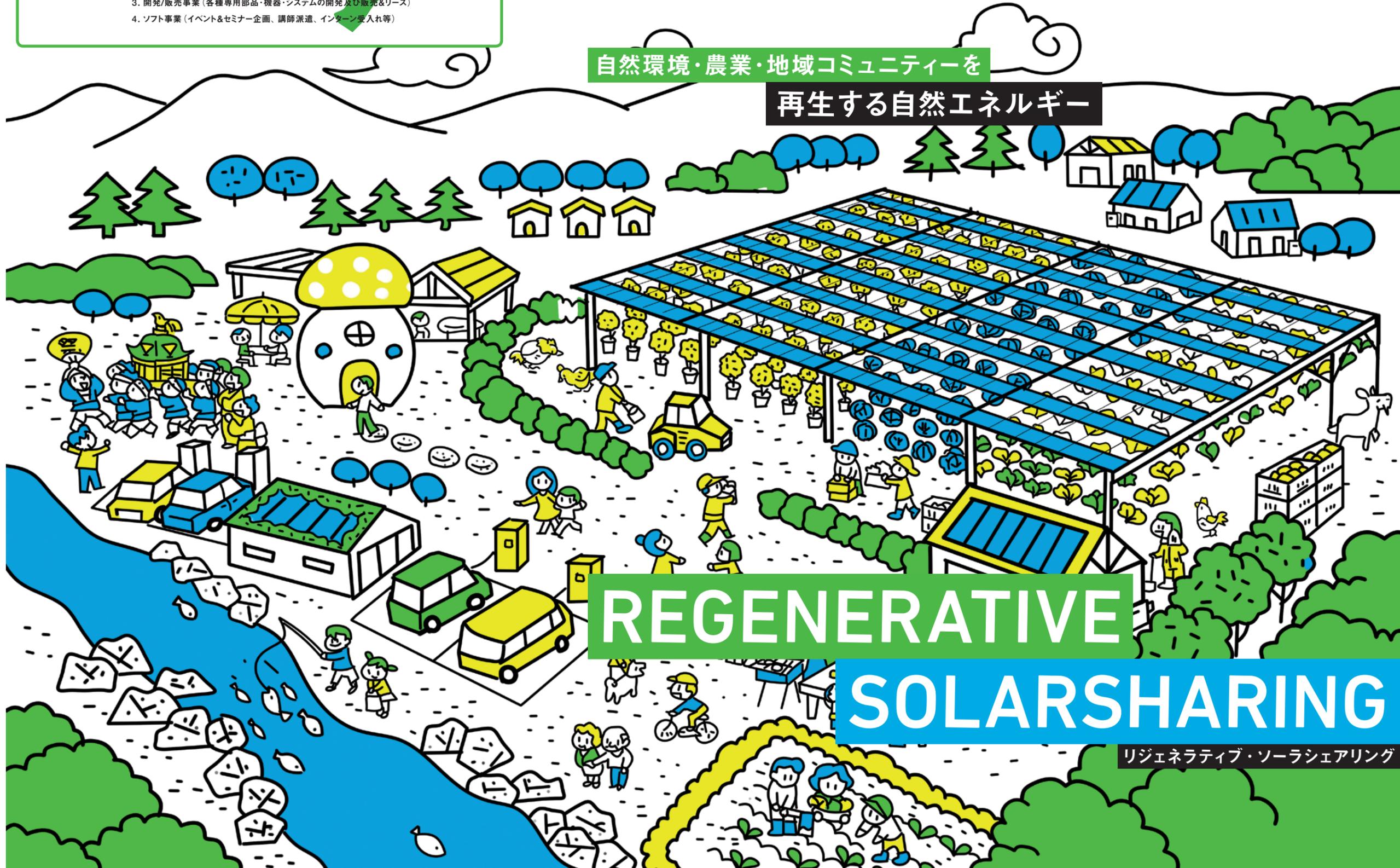
MIN·ENE

みんエネ

produced by 市民エネルギーちば株式会社

自然環境・農業・地域コミュニティを

再生する自然エネルギー



REGENERATIVE

SOLARSHARING

リジェネラティブ・ソーラシェアリング



DEEP ECOLOGY

耕作放棄地や後継者のいない農地を取得

私たちの取り組みは、すべてが“環境”とつながっています。ソーラーシェアリングの意義は、農業と発電事業を両立させ、地域社会に貢献し得るだけではありません。化石燃料から太陽光にシフトすることで発電に伴うCO2が削減され、同時に、農作物による光合成によってCO2が減っていきます。気候変動という地球規模での環境問題を考えても、ソーラーシェアリングはもっとも理に適ったシステムなのです。

環境こそが、私たちの判断基準です。だから私たちは、敷地内をコンクリートで固めたり、除草剤を撒いてしまうような、土が呼吸できなくなる太陽光発電所には携わりません。また、山の斜面や稜線を壊すような太陽光発電所は、けっして作りません。ソーラーシェアリングを行うにしても、幅の狭い太陽光パネルを並べる“長島式”にこだわっているのは、それがいちばん農作物にやさしいかたちだからです。細形パネルなら、農作物にあたる光が均等になるとともに、雨だれの影響も抑えられます。

パネルの下で行う農業は、有機農法に徹しています。それは人にやさしいばかりでなく、微生物との共生を可能にし、生態系を守り、育むことにもつながっているからです。



不耕起栽培によって、土壌本来の力を活かす

私たちはいま、福島大学の金子信博教授（食農学類）とともに、“不耕起栽培”の取り組みも進めています。不耕起栽培とは、文字通り“耕さない農業”であり、環境保全型農業のさらに先を行くものです。

「耕しないと土が固くなるのでは」と懸念する人もいますが、必ずしもそうではありません。むしろ耕して雑草を取ることで、土壌微生物やミズなどの土壌生物が減り、かえって土が固くなってしまいます。不耕起や部分耕起・省耕起を、栽培植物に応じて組み合わせることで、根と微生物・土壌生物の働きにより、土は柔らかくなっていきます。土壌の生物多様性が保たれることで、土の機能が高まり、質の良い農作物をつくるのが可能になるのです。

それは、自然の仕組みを活かした土壌管理であり、環境負荷を減らすことに直結します。しかも、耕す手間が省けるので、営農コストの削減にも貢献します。

「TOKYO OASIS」ソーラーシェアリングを都市部にも

太陽の恵みを分かち合うというソーラーシェアリングの発想は、

農村だけにとどまらず、都市の緑化にも活かされようとしています。私たちは、このプロジェクトを「TOKYO OASIS（トウキョウ・オアシス）」と名付けました。これまで農業地域に設置されていたソーラーシェアリングを都市部で展開することにより、CO2削減はもちろん、都市部の課題解決と新たな付加価値創出を図っていくとするものです。

当面は、屋上緑化を切り口に展開していきますが、防災や地域コミュニティの拠点となる公園や公民館・学校などへも導入を進めていきたいと考えています。そこで生まれる電力を自家消費に回せば、電力会社から購入する電力量が減り、ZEH・ZEB（※）施策としても効果的。都市部でのエネルギー地産地消を後押しします。架台に間伐材を用いて木のぬくもりを伝えていくなど、堅牢性だけでなく、デザイン性も兼ね備えた都市型ソーラーシェアリングを目指します。

採れた作物は近隣の飲食店で使ってもらうほか、収穫体験プログラムや料理教室を企画して、子供たちの食育・農育に役立てることも可能です。地方のソーラーシェアリングと連携して、お互いの発電所に招待しあうなど、非日常の体験を提供するイベントを開催することもできるでしょう。農村と都市のヒト・モノ・コトが有機的につながり、環境への意識を共有する——ソーラーシェアリングには、それを実現するポテンシャルが満ちています。



市民エネルギーちば
代表取締役 東光弘



日本初の市民出資型ソーラーシェアリング「匠選第一市民発電所」。2014年に運転を開始した、市民エネルギーちばの第1号機。市民出資によるパネルオーナー制を導入し、誰でも参加できるようにした

※ZEH・ZEB……それぞれZero Energy House、Zero Energy Bildingの略。創エネと省エネなどを組み合わせることで、建物で消費する化石燃料由来のエネルギーをゼロにする取り組み、およびそれを実現した住宅、建物のこと

みどりの想いを みどりのカタチに

いちばん大切なのは、環境への想い。ソーラーシェアリングは、エコロジーを深化させます。それは人と大地をつなぎ、農村と都市をつなぎ、今日と未来をつなぐ大いなるツールです。いま、ソーラーシェアリングの新たな地平へ——私たちは歩み続けます。



東日本大震災、そして長島彬さんとの出会い

私たちの取り組みは、ソーラーシェアリングの考案者である長島彬さんとの出会いから始まりました。東日本大震災による原発事故を受け、エネルギーの在り方が問われているときでした。

原発に代わる電源として、太陽光発電が日本に不可欠なものとなることは分かっていました。しかし当時、事業として太陽光発電を行うには、実質的には野立てしか方法がありませんでした。ただ、野山を切り崩し、土地のかたちを変えてしまう野立て太陽光発電設備には、環境負荷が伴います。そのため私たちは、単純にこれを推進することはできませんでした。

環境負荷のない太陽光発電はあり得ないのか——それを模索しているときに知ったのが、長島さんの提唱するソーラーシェアリングだったのです。長島式ソーラーシェアリングは、けっして土地を痛めません。千葉県市原市にある長島さんの実証実験場を初めて訪ねたとき、太陽光パネルの下で農作物が健やかに育っている

姿に驚かされたのを覚えています。環境に負荷を与えないばかりでなく、農業にとっても有効なシステムであると直感しました。その頃は、まだ導入事例はほとんどありませんでしたが、ソーラーシェアリングこそ進めるべき太陽光発電のかたちだと考え、私たちは動き始めました。

ソーラーシェアリングはいまや全国に2000ヵ所以上、北海道から沖縄まで日本各地に広がっています。国の方針も、これを後押しするものになり、さらなる導入拡大に期待が高まっています。一方で、長島さんの理念に反して、大型のパネルを使い、農業を軽視して遮光率がとても高いなど「シェア＝分かち合い」の精神を置き去りにした名ばかりのソーラーシェアリングが横行してきているのも事実です。ソーラーシェアリングは、その在り様が問題となる段階に入ってきたとも言えるでしょう。

エネルギーの観点、農業の観点、地域振興の観点、ソーラーシェアリングの可能性はいま多方面から関心を集めています。だからこそ私たちは、先駆者の責務として、ソーラーシェアリングの正

しい在り様を示していかなければならないと考えます。理想のソーラーシェアリングを求めて——私たちは歩み続けます。

耕作放棄地が豊かな農地に蘇った

2019年度も「匠磋メガソーラーシェアリング第一発電所」で収穫祭を開催しました。農業関係者やソーラーシェアリング関係者はもちろん、近隣のファミリー層も多数訪れ、前年にも増してにぎやかな一日となりました。ここは、2017年3月に完成した設備容量 (AC) 1MWの大規模ソーラーシェアリング発電所。いまでは、すっかり地域に溶け込み、人々をここ匠磋市に呼び込む名物施設となっています。

この発電所は、農地を守って発電するというソーラーシェアリングの特性を一步進めて、耕作放棄地を農地として蘇らせた先駆的事例としても知られています。この土地では、かつてタバコ栽培などが行われていたが、15年以上前に耕作が放棄され、以来ずっと荒地になっていたのです。ここ以外にも匠磋市には耕作

放棄地が少なくなく、その解消は長年の地域課題でもありました。

営農を支え、地域課題を解決

耕作放棄地が拡大してしまうのは、採算性が悪くて、農業を続けたくても続けられない農家さんが多いからです。でも、ソーラーシェアリングによる売電で、安定収入を得ることができれば状況は変わります。農業の継続が可能となるばかりか、耕作が放棄されていた土地で再び農業を始める途も開けてきます。土地を再生させることができれば、地域は必ず良くなります。

現在、匠磋市飯塚地域には、匠磋メガソーラーシェアリング第一発電所のほかにも、私たちの関わるソーラーシェアリングが30ヵ所あり、合計設備容量 (DC) は3,260kW (2021/9月時点) に達しています。農家収入の安定にも寄与し、いまでは地域社会になくならない存在として認知されるに至っています。私たちは、これからも多様な成功事例をこの地で確立し、日本全国に、そして世界に広めていきたいと考えています。

SOSA MOVEMENT

ソーラーシェアリングの先駆者として

明日のエネルギー、食と農業、地域振興……複雑に絡み合う多様な課題の解決に向けて、ソーラーシェアリングはいま大きな注目を集めています。匠磋(そうさ)から日本各地へ、そして世界へ。私たちは、これからもソーラーシェアリングの可能性を拓き続けます。

売電収益を基金に「村づくり協議会」を設立

2018年3月に、ソーラーシェアリングの売電収益を基金とする「豊和村づくり協議会」を立ち上げました。地域内の発電事業者が協賛金を出し合い、これを基金として、地域課題の解決に取り組んでいくというものです。協議会のメンバーには、自治会や地元環境保全会、農業法人、小学校のPTA、環境NPOなど幅広い顔ぶれが並びます。協議会の名称にある「豊和」とは、匝瑳市飯塚地域と近隣地域を含むかつての村名です。この協議会名には、ソーラーシェアリングという新しいツールを活かして、自分たちの力でコミュニティを再生していこうという強い想いが込められています。

豊和村づくり協議会の事務局は、代々続く農家で、この地にソーラーシェアリングを根付かせた立役者でもある弊社取締役の樫茂雄が務めています。私たちは、ソーラーシェアリングによって、耕作放棄地という地域課題を解決することに先鞭をつけました。豊和村づくり協議会の創設は、その延長線上にあります。地域の人々とともに、より幅広い課題解決のために——豊和村づくり協議会では、環境保全や新規営農支援、子供たちの教育支援など、

多岐にわたる取り組みを進めています。

人が集い、活力あるコミュニティが生まれる

弊社としても、豊和村づくり協議会や関連団体と連携して、コミュニティ再生に向けたアプローチを強化しています。その一環として実施したのが、例えば、小屋づくりワークショップです。田舎暮らしや農業に関心をもつ都会からの参加者が、地元の方々の協力のもと、宿泊施設となる小屋を自分たちで作りました。この地域で約10年、レンタル農地「My田んぼ」という試みを続けてきたNPO匝瑳プロジェクトとの連携によるものです。

同NPOでは、以前より都会からの移住支援を行っていますが、移住者にとって、ここで仕事を見つけるのは容易なことではなかったと言います。そんな状況にあって、ソーラーシェアリングは新たな雇用を生み出し、今日では移住者の受け皿としても機能し始めています。昔からの地元住民と都会からの移住者が協調して、活力に満ちた新しいコミュニティが生まれようとしているのです。2018年10月には、農村民泊などを手掛けるグループ会社、株式会社「Re」も立ち上げました。

有機農業にこだわりつつ、6次産業化を推進

ソーラーシェアリングで作った農作物の販売に関しても、グループ会社とともに、新しい試みを始めています。地域の施設とも協力し、お菓子や飲料などの加工品を作り、オリジナルブランドとして販売する6次産業化もその一つです。

太陽光パネル下での営農を請け負うグループ会社、Three little birds合同会社の齊藤超共同代表は話しています。「去年収穫して仕込んでいた大豆が、この秋、味噌になりました。千葉県内の福祉事務所と一緒に、クッキーやお茶などの商品開発も行っています。また、小規模な豆腐屋さんやパン屋さんにも働きかけて、ソーラーシェアリングでできた食品を広めたいと思っています」。

Three little birdsは、有機農業にこだわる若手農家が中心となって設立した農業生産法人です。「ソーラーシェアリングで有機農業をすれば、化石燃料が枯渇しようが、海外から食料が来なくなろうが心配ありません。そこには電気もあるし、安全な食べ物もあります。そんな安心できる地域づくりに貢献したい」と齊藤さん。齊藤さんの想いは、私たち市民エネルギーちば全員の気持ちでもあります。

視察者1500人、理想のソーラーシェアリングを広めたい

私たちのもとには、年間1500人以上の視察者・見学者が訪れます。国内はもちろん、アジア各国、欧米、アフリカ、中南米からも関心を寄せられています。私たちが伝えたいのは、ソーラーシェアリングを使えば農地を活かし、眠っていた地域資源の価値を高め、その価値を皆でシェアする仕組みを作っていくことが可能であるということ。ここでの取り組みをオープンソース化して各地に広めていくことで、「地域」「農業」「生態系」などにも配慮した理想のソーラーシェアリング＝環境調和型・再生可能エネルギーの流れを加速していきたいと願っています。その先には——人と自然が響き合う、美しく心豊かな暮らしが、きっとあるはずです。



売電収益は不法投棄地の整備にも活かされた

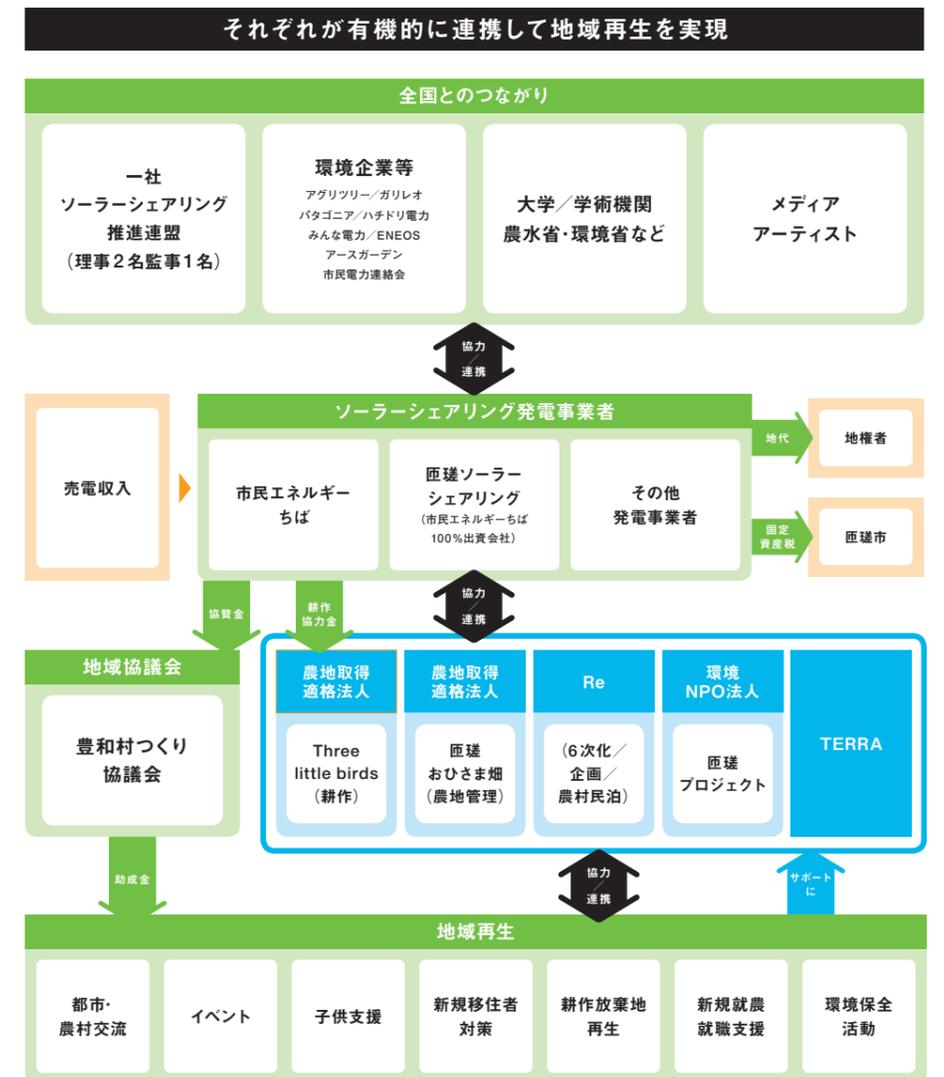
SOSA MOVEMENT



(上) 匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所。／設備容量(AC):1MW、土地面積:約32,000㎡、導入年月日:2017年3月、導入費用:約3億円
(左) 小屋作りワークショップで作った宿泊施設。内部には、地元の木材がふんだんに使われている
(中) My田んぼで週末農業を楽しむSOSA Projectの面々。この地の魅力に惹かれて移り住んできた人も少なくない
(右) ソーラーシェアリングの大豆で作った味噌を仲間と分かち合う、匝瑳プロジェクト理事・Re代表の高坂勝



市民エネルギーちば代表の東光弘(右)、市民エネルギーちば共同代表・豊和村づくり協議会事務局の樫茂雄(中央)、Three little birds共同代表の齊藤超(左)



多くの人々と“想い”を共有できるのも、ソーラーシェアリングの大きな魅力。

Group

〈子会社〉

■ Three little birds 合同会社

太陽光パネルの下で大豆や小麦などを栽培する、ソーラーシェアリング事業の営農部門を担当する農業生産法人。匝瑳市内で有機農業を取り組んできた若手農家が中心となって設立した。後継者不足で担い手がいなくなった農地でも、Three little birdsに営農を委託することで、ソーラーシェアリングを行うことができる。

同社は今年度、持続可能な農業の確立を目指して意欲的に経営や技術の改善などに取り組む農業者を表彰する「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」で、関東農政局長賞を受賞した。



■ 匝瑳ソーラーシェアリング合同会社

「匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所」の運営を担う、市民エネルギーちばの100%子会社。城南信用金庫からの融資とSBIエナジーによる社債引き受けなどにより当初事業資金3億円を調達し、2017年に当時としては日本最大規模となる同発電所を建設した。同発電所は、耕作放棄地の農地再生を実現した先駆的な事例として、国内外の注目を集めている。



■ 株式会社Re

市民エネルギーちばとともに、匝瑳市で地域振興のための幅広い取り組みを行っている。ソーラーシェアリング作物を使った加工品の開発・販売、古民家再生やエコツアーの企画・運営など、事業内容は多岐にわたる。暮らしを、遊びを、働くを、その先の世の中を——希望を据えた未来に向けて、Re Life/ Re Work/ Re Society へと導いていくことを目指している。



Association

〈組合・協会〉

■ ソーラーシェアリング推進連盟

ソーラーシェアリング発案者である長島彬氏を最高顧問に迎え、日本各地のソーラーシェアリング関係者が集結して生まれた非営利団体。ソーラーシェアリングの「普及啓発」「政策提言」「ネットワーク構築」を目指している。市民エネルギーちばの椿茂雄と宮下朝光が理事、東光弘が幹事として連盟運営に参画している。



グループ企業、提携企業、全国の仲間たちとともに、持続可能な環境調和型社会の実現を目指します。

Collaboration

〈協力会社〉

■ パタゴニア・インターナショナル・インク日本支社

アウトドア衣料品のグローバル企業、パタゴニア（本社：米国）。同社は環境問題への積極的なコミットでも知られ、2020年までにオフィスや店舗で使用する量の電力を100%再生可能エネルギーで賄い、2025年までに事業全体でカーボン・ニュートラルを達成することを目指している。

パタゴニア・インターナショナル・インク日本支社は、2019年4月9日より、国内最大規模の直営店であるパタゴニア渋谷ストア（東京）の使用電力を再生可能エネルギーに切り替えた。パタゴニアが参加し、市民エネルギーちばが運営する匝瑳市のソーラーシェアリングで発電された電力は、みんな電力のブロックチェーン技術を使って渋谷ストアに運ばれ、年間電力使用量の多くを賄っている。市民エネルギーちばとパタゴニア・インターナショナル・インク日本支社は、今後も協力して、再生可能エネルギーの利用拡大を進めていく。



■ 株式会社サザビーリーグ（ロンハーマン）

バッグ・アクセサリ・生活雑貨・衣料品などの企画・販売、飲食店運営などをグループで行う株式会社サザビーリーグ。その中でもサステナビリティに本格的に取り組むファッションブランド「ロンハーマン（RON HERMAN）」とのコラボレーションも、2021年秋にスタート。ロンハーマンは、アパレル業界最大の課題である余剰在庫の削減のために需給の最適化を行い、プロパー消化率80%を目指し、23年までに店舗でのセールを廃止する予定とのこと。同年5月に発表したサステナビリティ・ビジョンの一つ「2030年までにロンハーマン事業のCO2排出量実質ゼロ」実現するために、千葉県匝瑳市にソーラーシェアリング施設「ロンハーマン匝瑳店」を新設。つくられた電力はロンハーマン店舗へ供給し使用するほか、パネル下では有機農業を行う。また使用する太陽光パネルは全てリサイクルパネルとなる。



■ 株式会社アグリツリー

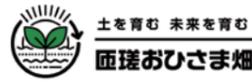
「持続可能な食とエネルギーを創り続けていく」をコンセプトに、ソーラーシェアリング、農業経営のサポート、自然エネルギーを活用したエネルギーマネジメントを手掛けている。福岡県那珂川市に本社を置き、ハウステンボス（長崎県のテーマパーク）園内での自家消費型ソーラーシェアリングをサポートするなど多様な実績をもつ。市民エネルギーちばはアグリツリーと連携して、日本各地に健全なソーラーシェアリングを普及させるべく努めている。



代表取締役 西 光司さん



Company Name



株式会社 匠瑛おひさま畑

〈匠瑛おひさま畑のテーマ〉

- ソーラーシェアリングの郷 構想 『人が集う』農村づくり、景観も重視した農村づくり
- 大地に根差す人材育成
- 災害に強い農村づくり
- 地域循環共生圏の実践
- 植樹や暗渠などによる水脈改善
- 耕作放棄地、不在地主圃場の解消
- 匠瑛をオーガニックに!

COMPANY PROFILE

■会社名	株式会社匠瑛おひさま畑	■代表取締役	山内 猛馬 (市民エネルギーちば株式会社 常務取締役)
■設立	2021年1月18日	■取締役	東 光弘 (市民エネルギーちば株式会社 代表取締役)
■代表取締役	榑 茂雄 (市民エネルギーちば株式会社 共同代表取締役)	■所在地	〒289-2106 千葉県匠瑛市飯塚1037-1

“ソーラーシェアリングの郷”に農地所有適格法人「匠瑛おひさま畑」が誕生 耕作放棄地を買い受けて畑に戻すなど、地域課題の解決に新たな一歩

市民エネルギーちばを中心とした未来の村づくりプロジェクト“ソーラーシェアリングの郷”に、匠瑛おひさま畑という新しい仲間が加わりました。この会社の設立により、私たちのソーラーシェアリングはまた一歩、理想のかたちに近づきます。同社の共同代表となった榑茂雄(市民エネルギーちば共同代表取締役)と山内猛馬(市民エネルギーちば常務取締役)に、新会社設立の背景や事業の内容、そしてソーラーシェアリングにかける想いを聞きました。

耕作放棄地や後継者のいない農地を取得

■なぜ、匠瑛おひさま畑を設立することになったのですか。

榑：これまで私たちは、市民エネルギーちばとして、地元・匠瑛市を中心にソーラーシェアリングの普及拡大に努めてきました。現在、16ヵ所のソーラーシェアリングを運営しておりますが、多くの場合、土地を借りてやっています。ただ、地主さんが高齢で、土地相続の問題に直面することも少なくありません。

事業の安定性を考えると、農地を自ら所有して、その土地でソーラーシェアリングを行った方が合理的です。地主さんの方からも、「後継者がいないので土地を買い取ってもらえないか」というような相談を、ここ数年、数多く受けるようになっていました。しかし、現在の法制度のもとでは、売電収入の比重が高い市民エネルギーちばが、農業法人として農地を所有することはできません。そこで、農地をもてる農地所有適格法人をグループ内に立ち上げようと考えたわけです。それが、匠瑛おひさま畑です。

そして、もう一つ、匠瑛おひさま畑設立の大きな動機となったのが、「土地改良区の余剰地をなんとかしてもらえないか」という地元からの要請でした。この地域では以前、行政による大規模な土地改良事業が行われたのですが、そのときの余剰地が6町歩(約6ha)もあって、地域にとっては負の財産となっていました。そこを「引き取って、使ってもらえないか」と打診されていたのです。余剰地のほとんどは耕作放棄地で、採算性からみて農業だけでは成り立ちませんが、発電と組み合わせたソーラーシェアリングであれば、事業として成立させることができます。匠瑛おひさま畑は、この余剰地の受け皿とするためにつくった会社でもあるのです。

農業を再興し、地域の衰退を防ぎたい

■新会社にかける想いを聞かせてください。

榑：農業が衰退していくということは、地域が衰退していくこととイコールだと思っています。農業を守るということは、結果として、地域社会を支えていくことに繋がっているのです。農業は、その土地を離れては成り立ちません。土地から逃げることはできないから、自分が立っている土地に責任を持ち、持たざるを得ないのです。

大企業等をもってきて一時的に地域経済を支えたとしても、何かあれば、すぐに逃げていってしまいます。その後に残るのは地域の衰退です。僕たちは、そういう例を何度もみしてきました。耕作放棄地を中心にソーラーシェアリングを展開してきましたが、そこには農地を再生することで地域を守り、持続可能な地域社会をつくっていききたいという強い想いがあります。匠瑛おひさま畑は、それを着実に進めていくための新たな一歩なのです。日本中が同じような問題を抱えています。ここで成功例をつくることで全国に発信し、広げていきたいと思っています。

山内：私は、市民エネルギーちばの設立に伴って匠瑛にやってきた人間ですが、ソーラーシェアリングを核として地域の活性化を図りたいという想いは榑と一緒にしています。

カーボンニュートラルに向けて、再エネを増やそうという動きが強まっていますが、CO2を吸収してくれる山林を切り開いてつくるような太陽光発電所では意味がありません。その点、ソーラーシェアリングなら、環境を保全するだけでなく、緑を増やしながらかCO2フリーの電気をつくることができます。

ただし、ソーラーシェアリングは、パネルの下で営農する人間がいなくては始まりません。あくまでも農業があってこそその太陽光発電です。ですから匠瑛おひさま畑では、ソーラーシェアリングのために取得した土地で農業をしてくれる人、営農者を育てていきたいとも考えています。新しく農業をやりたいという方にどんどん入ってきていただき、一緒にやっていければと思います。将来的に独立を目指したいという方も大歓迎です。そうやって、ここ匠瑛に人が集まり、農業が豊かになり、地域が活性化していく、そういう循環をつくっていければ幸せですね。

約2MWの大規模ソーラーシェアリング

■事業内容について、具体的に教えてください。

榑：まずは今年度中(2021年度)に、初めにお話した土地改良事業の余剰地全6町歩を、匠瑛おひさま畑ですべて買い受けます。そして、そこを中心に、グループ内外の力を合わせて、2.7MWのソーラーシェアリング発電設備をつくります。これは、いまある匠瑛メガソーラーシェアリング第一発電所の2倍に相当する大規模なものです。ここでの発電事業は市民エネルギーちばが主体となり、匠瑛おひさま畑は営農の主体として、その設備の下で大豆や麦などを育てていくことになります。この地域で行っている農家さんや移住してきた人たちの力も借りながら、ソーラーシェアリングを活用した新しい農業を進めていく方針です。

■中長期的なビジョンは？

榑：今回引き受ける余剰地以外にも、このエリアには耕作されず荒れ果てた農地、耕作放棄地が点在しています。そうした土地を積極的に買い受けて、畑に戻していけるような体制を、なんとかもつっていききたい。そして、先ほど山内も言ったように、そこで農業を開始しようという人たちを育て、支援していけるよう



代表取締役 山内 猛馬

な会社になっていければと思っています。

山内：営農者に根付いてもらうためには、彼らが末長く暮していける環境を整えていくことが大事です。将来的には、農業だけに限らなくても良いので、この地域に人を増やして、地域の活性化に貢献していけるような取り組みを進めていければと考えています。なによりも地元の方々に喜んでいただきながら地域を發展させていくこと、それこそが私たちの目指すべきところであり、一番の願いです。

榑：これからの日本のあり方を考えたとき、ソーラーシェアリングは着実に伸ばしていかなければならないものです。しかし、現在、目先の利益だけを考える業者が農地に目をつけ、農業のことを疎かにした発電設備をつくる動きも広がっています。だからこそ、僕たちはソーラーシェアリングの先駆者として、本当に健全なソーラーシェアリングのあり方を示していかなければなりません。匠瑛おひさま畑も、そういう会社として成長させていきたいと思っています。



太陽光パネルの下でのリジェネラティブ播種の様子(2021年6月撮影)



代表取締役 榑 茂雄

「Solar Sharing Companies」 ソーラーシェアリングカンパニーズ始動!



日本全国の施工・代理店ネットワークを構築し 農業最優先のソーラーシェアリング導入をサポート

株式会社ガリレオ(長野)、株式会社アグリツリー(福岡)、市民エネルギーちば(千葉)の3社協業により、ITを駆使したソーラーシェアリングの導入・設計・施工システムが完成しました。遠隔地での展開も視野に、全国各地の施工店と連携するための仕組み作りにも挑戦しています。



ソーラーシェアリングをもっと身近に

ソーラーシェアリングには、導入に際して各種手続きの煩雑さ、作物や地形に因る設計の非標準化、施工時の制約などの課題があります。Solar Sharing Companies (SSC:ソーラーシェアリングカンパニーズ)は、それらの課題に対し、ITを活用して生産性や資材調達力の向上を図り、ソーラーシェアリングの普及をさらに推し進めるべく立ち上げられました。

長野、福岡、千葉を拠点にソーラーシェアリングを展開する3社が連携し、それぞれの強みと経験を活かして、導入・設計・施工をシームレスに実現。業務効率を向上させ、飛躍的なコスト削減を可能にする独自の導入支援システム「NEXT ON (ネクストオン)」を運用しています。

新規顧客がソーラーシェアリングを検討するためのシミュレーターから、各種手続きの支援システムについてはガリレオ

が担当。アグリツリーは見積りから設計、資材調達のシステム化を統括。市民エネルギーちばが、施工からメンテナンスまでのシステム化を担っています。

今後は、全国各地の施工・販売店をネットワーク化するとともに、建設&運営スキームの一般化を図り、産業としての健全な成長に貢献していきたいと考えています。

2022年「Solar Sharing Farmers」もスタート!

■太陽光パネルの下での農業をサポートする、Solar Sharing Farmers (SSF:ソーラーシェアリングファーマーズ)も準備中です。豊富な栽培データをベースに、営農状況を一元管理。ITを活用した多様な営農支援サービスで、農家さんの負担を軽減します。

「THE 土と太陽の発電所 ～Soil&Sun～」開設!



ソーラーシェアリングの可能性を広げる新コラボレーション 有機農業×自然エネルギー×人と人を繋ぐエシカル教育

株式会社ボーダレス・ジャパン、一般社団法人エシカル協会、Three Little Birds合同会社と、施工担当/発電事業者である市民エネルギーちば株式会社を合わせた4社が共同で取り組む事業として、「THE 土と太陽の発電所～Soil&Sun～」が6月30日に動き出しました。

共に学びあう関係性を育む場所に

「THE 土と太陽の発電所～Soil&Sun～」は、4社それぞれの特長を活かして「次世代ソーラーシェアリング」の実現を目指す、これまでにない取り組みです。ソーラーシェアリングを「人」と「人」を繋ぐ教育フィールドとすることで、農業と自然エネルギーに加えて、共に学びあう関係性までを有機的に育むことを推進していきます。

Three Little Birdsが太陽光パネルの下で有機農業を行い、ボーダレス・ジャパンが運営する「ハチドリ電力」と市民エネルギーちばが発電事業を担当。エシカル協会がこの事業全体を教育の場として活かして、エシカルなライフスタイルを実践する人を

ともに増やしていきます。今後は、フィールドツアーや施設見学、農作業の支援、全国への仕組みの提供も行っていく予定です。

本発電所の発電容量は63.36kWで、設置面積は1183㎡、農地の面積は6295㎡あります。耕作放棄地が多かったエリアで循環型の有機農業を行うことで、地球と地域への還元を行っていきます。



エシカル協会による除草の様子。右は森敏理事(2021年8月撮影)

Comment

開設にあたってのコメント

株式会社ボーダレス・ジャパン
代表取締役 田口 一成

「ハチドリ電力のミッションは、『自然エネルギーの発電量を実際に増やす』ことです。有機農業と共生する『ソーラーシェアリング』は、環境負荷の低い自然エネルギー発電を追求していくハチドリ電力にとって、とても重要なプロジェクトです」

市民エネルギーちば株式会社
代表取締役 東 光弘

「『地方と都市をどのように繋いでいくか?』『生態系と人類文明をどのように調和させるか?』この二つの課題をソーラーシェアリングを通じて実現していくのが【みんエネ】のミッションです。電気も一つのメディアと捉え、楽しき本気の仲間と協力して全力で進みます」

一般社団法人エシカル協会
代表理事 末吉 里花

「エシカル協会のミッションは、『エシカルの本質について自ら考え、行動し、変化を起こす人々を育み、そうした人々と共に、エシカルな暮らし方が『幸せのものさし』となっている持続可能な世界を実現する』ことです。今回の取り組みは、社会課題を解決する事業を営む3社が、互いの専門性を活かし、土と太陽のもとで自然と共生し、実践者となる事で『幸せのものさし』を後世に伝えていく一歩になると確信しています」

Three Little Birds合同会社
代表社員 佐藤 真吾

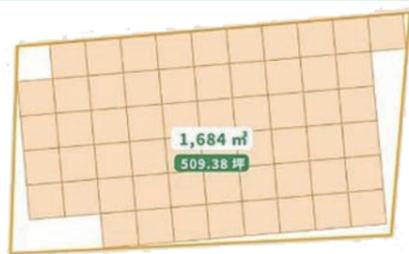
「ソーラーシェアリングの畑は食べ物も生み、電気も生む畑であります。畑の土の微生物や生き物、そして協業できる皆さん、そこに集ういのちのエネルギーがより豊かにできるものと考えています」

SSCが提供する導入支援システム「NEXT ON」

わずか数ステップで、その農地に
どれだけソーラーパネルが設置できるのか試算できます。

活用方法 | 農地について | 周辺状況 | 作物について | 収益予測

あなたの農地の収益予測



架台種別	アルミ・太陽追尾
太陽電池モジュール	89.32kW

NEXT ON アプリ画面の一例

「NEXT ON」における3社の役割



当システムは経済産業省「令和2年度ものづくり・商業・サービス高度連携促進補助金」を受けて進め、優良事例として高く評価されました。Web説明会やホームページ上で事例をご紹介します。

理想のソーラーシェアリングを実現するために、 私たちは技術開発にも力を注いでいます。

すべての原点はここにある

■長島式ソーラーシェアリング

市民エネルギーちばでは、ソーラーシェアリングの発案者・長島彬さんが提唱する「細形パネル&遮光率35%以下」を、すべての基本と位置づけている。野立ての太陽光発電所で一般的に用いられる6列セルのパネルではなく、2列セルの細身（35cm以内）のパネルが標準となる。細身のパネルにすれば、農地に大きな影ができるのを抑え、均等に光を当てることが可能。また、雨が降っても、6列セルのように強い雨だれが生じることもない。大きい面積で雨



ソーラーシェアリング発案者 長島彬さん
2004年にソーラーシェアリングの特許を出願し、誰でも無償でこの技術を使えるよう2005年に公開した。CHO技術研究所代表/ソーラーシェアリングを推進する会会長/ソーラーシェアリング推進連盟最高顧問

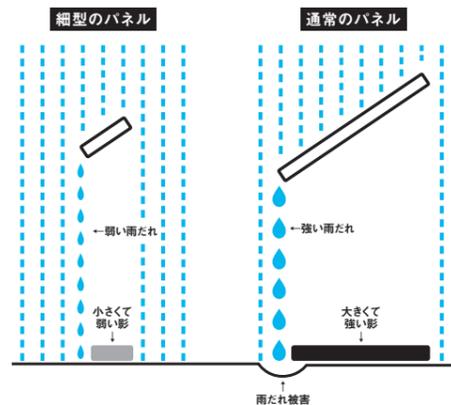
■両面受光細形パネル（世界初運用）

両面受光タイプの細形パネルを採用したソーラーシェアリング発電所（AC49.5kW）を、2019年、匝瑳市内に世界で初めて建設した。現在、その性能検証を行っている。ソーラーシェアリングにおいては、農地の形に合わせてパネルを設置する機会が多く、必ずしも発電量が最大になる向きに設置できるとは限らない。そのため、朝夕の横からの光を裏面受光できるメリットは大きい。また、パネルの下に作物が育てば、葉からの散乱光まで無駄なく発電に活かすことができる。両面受光パネルなら、狭い農地でも、高効率な発電システムを構築することが可能となる。



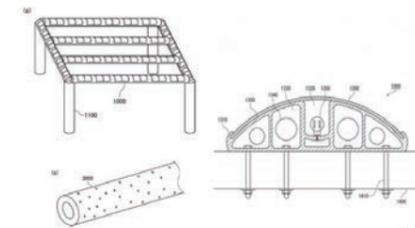
を受ける6列セルの場合だと、どうしても雨だれも強くなり、下の土がえぐられ、農作物に悪影響を与えてしまうのだ。一方、2列セルの細形パネルなら、それぞれのパネルが受ける雨量が少ないので、雨だれの強さは抑えられる。さらに、風による影響も少なくなるので、安全性の高いソーラーシェアリングシステムを構築することができる。

〈細形パネルなら雨だれによる影響も少ない〉



■かまぼこ型ソーラー（特許取得済）

上部を曲面にした「かまぼこ型」の架台一体型パネルを独自開発。風を曲面で受け流すので、耐風性能が飛躍的に向上する。従来型のパネルのように東西に渡して南向きに設置するのではなく、南北に設置することで、朝から夕方までまんべんなく光を受けられることができる。パネルの角度調整をする必要がなく、設置が容易な点も大きな魅力となっている。



そのとき私たちは、何を考え、行動したのか 台風停電に救い。太陽光発電所が充電ステーションに!

【SOLAR JOURNAL】web版 2019年11月掲載 取材・文/廣町公則 (現状に合わせて一分加筆修正)



市民エネルギーちば共同代表の椿茂雄氏

非常用電源になる太陽光発電

2019年秋、強大な台風が猛威を振るい、千葉県を中心に東日本各地に甚大な被害をもたらした。なかでも多くの人々を悩ませたのが、復旧の目途さえ立たない、長期にわたる大規模停電だった。こうした状況にあって、改めて注目を集めたのが、非常用電源としての太陽光発電の存在だ。自宅の屋根に太陽光パネルを設置している家庭では、パワーコンディショナの自立運転機能により、地域が停電していても電気を使うことができた。太陽光発電協会が台風15号について行った調査では、住宅用太陽光発電ユーザーの約8割が、停電時に発電設備を有効活用できたと答えている(※)。通常は全量売電している事業用太陽光発電所であっても、自立運転機能付きのパワーコンディショナを備えていれば、発電した電気をその場で使用することができる。住宅用と違ってパワコンの台数が多いので、万一の場合には、多くの地域住民に電気を供給する“充電ステーション”とすることも可能だ。

“電気の炊き出し”で被災者支援

台風15号による停電に際し、いち早くこれを実践したのが、千葉県匝瑳市でソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）に取り組む市民エネルギーちば株式会社。停電が長引きそうだとの情報を受けて、停電の翌日には、自社「第一発電所」の前に充電ステーションを立ち上げた。発電所に設置された5台のパワーコンディショナから直接電気を取り出し、誰でも無料で、携帯電話やスマートフォン、ノートPCなどの充電を行えるようにしたのだ。無料充電ステーションは、停電が復旧するまでの6日間開設された。近隣の人々のべ150人ほどが訪れ、充電難民となる危機を救われた。利用者からは「匝瑳市役所にも充電所があったが、いつも行列ができていたので、ここですぐに充電できたのはありがたかった」「充電をしている間、同じ境遇にいる人たちと愚痴を言い合うことで気晴らしができた」など感謝の言葉が寄せられたという。「ここで充電できるとは知らなかった。友達にも教え

てやりたい」という声もあり、実際、知人に聞いてやってきたという人は少なくなかった。この充電ステーションは、さながら“電気の炊き出し”とでも呼ぶべきものだったのかもしれない。市民エネルギーちば共同代表の椿茂雄氏は「私たちの設備は大きな被害をまぬがれ、発電し続けていたので、地域のために役立てたかった」として、次のように話す。「太陽光発電所は防災拠点にもなり得るものです。停電が起きたら地域に開放したい、という想いは会社設立当初からありました。今回、少しでも貢献できたなら嬉しいのですが、同時に多くの課題を発見することにもなりました」

地域との共生を目指して

椿氏のいう課題とは、まず、すべての自社発電設備を自立運転可能なシステムにしていくことだ。全量売電を前提とする従来の事業用太陽光発電においては、余剰売電が基本の住宅用とは異なり、自立運転機能付きパワーコンディショナは必ずしも一般的ではない。そのため、停電時に地域に直接電気を供給したいと考えても、機械的に不可能な場合が少なくないのだ。市民エネルギーちばでは、同社が運営する全発電所で、自立運転機能の強化を目指していく。また、「人的リソースをはじめ、災害時の体制づくりも急務」だと椿氏は語る。平時から地域との連携を密にし、いざという時には一丸となって取り組める仕組みをつくっておくことが大切だという。市民エネルギーちばでは、昨年3月、売電収益を基金とする「村づくり協議会」を立ち上げ、地元の人々とともに地域課題の解決に取り組んでいる。今回の経験を踏まえ、今後いっそうの拡充を図っていく考えだ。市との災害時非常用電源の協定化も進んでいる。地球温暖化の影響もあり、台風や暴風雨が激甚化し、それに伴う大規模停電も珍しくなくなった。非常用電源、防災拠点としての太陽光発電所の存在意義は高まるばかりだ。しかし、その真価を発揮させるためには、地域との共生が不可欠だともいえるだろう。市民エネルギーちばの試みから、学ぶべきものは多い。



※災害時(台風15号)における太陽光発電の自立運転についての実態調査結果。
停電の規模が大きかった千葉県において2019年9月20日~10月10日にヒアリング調査(ヒアリング件数:486件)

Company Name

株式会社 TERRA



COMPANY PROFILE

- 会社名 株式会社TERRA
- 設立 2021年5月13日
- 代表取締役 東光弘（市民エネルギーちば株式会社 代表取締役）
- 所在地 〒289-2106 千葉県匝路市飯塚1062



新開発の1列セル（試作デモパーツ/部分）



パネルと一体化化する架台（試作デモパーツ/部分）



現在から未来へと続く「現実」をオーガナイズする 地球環境と調和した理想の暮らしを実現するために

ソーラーシェアリングのシステム開発から、農業、食品、メディア事業まで。私たちはいま、より多くの人たちとの共感を求めて、より多様なフィールドへと歩み始めます。欲しいのは、笑顔が溢れる持続可能な世界。新会社TERRAは、皆様とともに、そんな未来を着実に手繰り寄せていきたいと考えています。

「世界は変わるのだ」ということを証明したい

17歳で環境問題に関心を持ち、1989年より、オーガニックフードとエコロジカルグッズの流通を通じて環境問題に携わってきました。東日本大震災をきっかけに2012年からは、市民エネルギーちば（MIN-ENE）において、ソーラーシェアリング（SS）を軸として、再生可能エネルギーの開発と農業・地域社会の再生を目指し、その普及・推進に努めてきました。

一貫してその活動の核となってきたのは、私たちが暮らすこの地球、自然環境への危機感と問題意識です。

オーガニックに関しては、実に多くの方々の努力により30年前に比べて認知度とシェアは向上しました。私たちのソーラーシェアリングに関しては10年あまりの活動により、拠点である千葉県匝路市には数多くのSS発電所が完成し、自然エネルギーの創出だけでなく、若手農家の育成や基金の設立などにより、地域社会や環境と調和した「ミライのムラ」作りが進んでいます。

しかし、状況は全く楽観できるものではありません。気候変動の影響による大規模な自然災害の表出だけでなく、内在化した多くの問題が、心ある科学者たちの手によって次々と明らかになっ

てきています。私たちはまさにボーダーライン上に生きていることを強く認識すべき状態です。

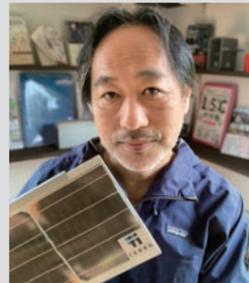
これからの一歩一歩を、力強く踏み出したい

人類に未来があるとすれば、それは環境と調和し、そこに暮らす全ての人々の笑顔が溢れる社会。そんな未来も、今現在、生きている人々が選択した行動の積み重ねによってのみ達成されるものであるはずで

環境問題が境界線に来た現在、日々刻々と大変な勢いで個人や企業の意識も大きく変わりつつあります。TERRAは、そんな気づきを得た多くのみなさまと共に現在から未来へと続く「現実」をオーガナイズする会社です。

地球環境と調和した理想の暮らしを実現するための「ギア」＝技術・サービス・アイデアを生み出すことで、笑顔が溢れる「現実」を創り続けていきます。

代表取締役/エグゼクティブ・ディレクター 東光弘



Topic

■新オフィス「TERRA小屋」完成！

私たちの活動拠点となるTERRA小屋が、9月初旬に完成しました。日本古来の板倉造りを採用し、ペアガラスや断熱サッシ・羊毛断熱材で高気密を実現した環境に優しい省エネオフィスです。最終的に屋根に太陽光パネルを設置してオフグリッドハウスとなります。テラスから月がよく見え、日本酒がとても美味しく感じます。

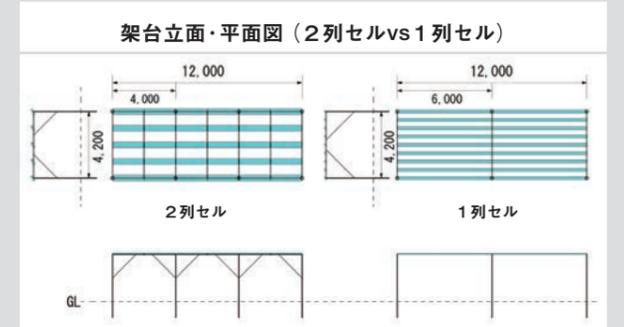


次世代ソーラーシェアリングを具現化する新ソリューション 「1列セル」システムで農業重視とコストパフォーマンスを両立

私たちはこれまで、農作物に負荷をかけない細型パネル（2列セル）を使ったソーラーシェアリングにこだわってきました。TERRAでは、それをさらに進めて、独自の「1列セル」システムを企画・開発。すでに国内外の特許を取得しており、2022年春より提供を開始する予定です。

TERRAの1列セルは、農作物に優しいだけでなく、圧倒的なコストパフォーマンスを誇ります。超軽量なフレキシブル太陽光パネルを採用した架台一体型のシステムとなっており、運搬や施工の労力も大幅に削減。従来のシステムに比べてイニシャルコスト30%OFF、工事費を含めて10万円（DC1kW当たり）を切る低価格を実現します。

極細な1列セルは風や雪の影響を受けにくく、上部構造の圧倒的軽量化により地震にも強い構造となっています。さらに、パネルの長さを6mとすることで、支柱の間隔もこれまでの4mから6mに拡大。農作業における利便性も一段とアップしました。



TERRA's Fields

Sharing

次世代ソーラーシェアリング

ソーラーパネルと架台を一体化した独自開発の1列セルシステムを開発。高剛性・高効率であるだけでなく、1kWあたり10万円を切る画期的な低コストをも実現することで、全く新しい次世代のソーラーシェアリングが現実のものになります。

Tokyo OASIS

都市部のビル屋上を緑化すると同時に、ソーラーシェアリングを設置して都市上空にサステナブルで新しいコミュニケーションスペースを創出していきます。

Agriculture

再生型農業

不耕起をはじめとするさまざまな方法で、従来に比べて大気からより多くの炭素を隔離、健康な土壌を作り、有機農法と組み合わせることで、地球環境に寄与するだけでなく、より安全性の高い食物を育成します。

TERRA's Kitchen

テラズキッチン

ソーラーシェアリングによる再生可能エネルギー、不耕起による再生型農業（Regenerative Organic Agriculture）などをベースとする、「環境への負荷軽減」を前提とした全く新しいサプライチェーン。サステナブルフードデリバリーの究極アソート・パッケージです。

Ethical&Fairtrade

エシカル&フェアトレード

人や地球環境、社会、地域におもいやりのある考え方や行動をする人たちのためのファッションブランド、繋がりを体感できるリアルメディアとしての場＝カフェ。

TERRA BOOKS

メディア・出版

書籍をはじめとする紙媒体や、ネットメディアのコンテンツを制作、より多彩で大きなネットワークの広がりを生み出します。

パネルオーナー制度のご案内

～プロジェクトリーダーからのごあいさつ～

土を耕す。
未来を耕す。



一人ひとりの小さな力をつなぎ合わせ、自然エネルギーの活用で地球温暖化を防ぎ、「脱原発」社会をつくりたい。農業を再生して地域社会を守りたい。そうした思いから、「ソーラーシェアリング」の市民発電所をつくろうと思いました。匝瑳市飯塚の開畑地区は、文字通り40年前に山を切り拓いた所です。当時は希望の光でしたが、今は耕作放棄地に悩んでいます。でも、ちょっと北海道を思わせるような、自然に囲まれ太陽が降り注ぐ、素晴らしい場所です。畑の上で発電し、下で作物をつくる。太陽の恵みを両方で活用できる「ソーラーシェアリング」は農業と地域再生の切り札です。地面に太陽光パネルを敷きつめる通常のメガソーラーではないから自然にも溶け込み、市民発電所なので一人ひとりの思いと力がつながります。パネル1枚から参加できる市民発電所。みなさまのご参加を、心よりお待ちしております。

椿 茂雄 (弊社共同代表取締役)

地域にも環境にも配慮した市民共同発電所です!

環境配慮

環境団体から生まれた会社だからこそ、ただ単に自然エネルギーによる発電所をつくるのではなく、「食」「農」「生態系」なども配慮して運営を行なっていきます

市民発電

ドイツでは市民が自分たちで作る市民発電所が全体の60%を占めています。日本でも市民の誰もがその恩恵を享受できる市民発電所が増えることを願っています

地域と共に

災害時や停電時には、地域の皆様に無償で電気の供給を行います。また地域の農業生産法人「Three little birds」と連携し、有機農業の推進と雇用促進に取り組んでいます

契約について

【申込方法】

- ①購入申込書にソーラーパネルの購入枚数ご記入と、ソーラーパネルの賃貸借契約期間(12年、15年、19年)の中から1つ選択のうえ、本人確認書類(運転免許証・健康保険証・住民票のいずれかの写し)を同封してご送付願います。
- ②お申し込みにつきましては先着順にて受付いたします。申込み締切り後に購入申込みをいただいた方には弊社からご連絡差し上げます。なお、弊社において購入申込書及び本人確認書類を精査した結果、購入申込みをお断りする場合がございますので、あらかじめご了承ください。また、お預かりいたしました購入申込書及び本人確認書類につきましてはお返ししかねます。

【賃貸借契約】

- ①申込内定者様には、弊社から賃貸借契約書をお送りいたします。賃貸借契約書を受領されましたら、その内容を十分ご検討下さい。その上で、賃貸借の条件にご納得頂いた方のみ、賃貸借契約書に住所・氏名等の必要事項を自署し、ご捺印いただいたものを弊社が指定する日までにご返送いただき、併せて申込証拠金をお支払いください。
- ②賃貸借契約書の返送及び申込証拠金のお支払いは、弊社が指定する日までに終わってくださいますようお願いいたします(必着)。万一、当該期日までに賃貸借契約書の返送及び申込証拠金のお支払いを弊社で確認できない場合、お申込みを撤回したものとみなすことがあります。
- ③弊社にて支払期限までに申込証拠金全額のお支払いを確認いたしましたら、ご送付いただきました賃貸借契約書に捺印し、賃貸借契約書1部と、ご購入されたソーラーパネルの番号を記載いたしました借受証を返送いたします。

【代金支払】

弊社が指定する日までに、申込証拠金として、ソーラーパネル1枚当り38,500円(35,000円+消費税10%)を指定の金融機関口座にお振込み願います。(口座につきましてはお申込み内定者様に別途お知らせいたします) ※なお、ソーラーパネルの申込証拠金につきましては、売買契約成立と同時にソーラーパネルの売買代金に充当します。

【契約成立】

別途締結するソーラーパネルの賃貸借契約の成立と同時に、ソーラーパネルの売買契約も成立するものとします。申込証拠金が売買代金に充当された日にソーラーパネルが設置されている位置においてお引き渡しとなります。 購入申込書に記載された事項、本人確認書類に記載された事項その他の個人情報につきましては、法令に従って厳重に管理し、不正利用や関係者以外への漏洩を防止する対策を講じます。

パネルオーナー募集

パネルオーナー制度のしくみ (団体、グループ、法人での購入も可能です)

ソーラーパネルを1枚から
ご購入いただけます。

ソーラーパネルの破損等に対する備えとして、
弊社にて損害保険に加入いたします。

ご購入いただいたソーラーパネルにつきまして、
パネルオーナー様には、
毎年固定の賃料をお支払いいたします。

(資料につきましては、下記の表Aをご参照ください)

今回販売するソーラーパネルの賃貸借期間は
12年、15年、19年の3コースです。

それぞれ契約期間終了後、弊社にてパネルオーナー様から
ソーラーパネルを買取させていただきます。
(弊社の買取価格につきましては、下記の表Bをご参照ください)

オーナー様の収支シミュレーション

弊社は、オーナー様にソーラーパネル(以下、パネルと省略)を1枚35,000円(消費税別)でお売りした上で、オーナー様からパネルを下記の■【表A】の賃料(消費税別)で借り受けます。オーナー様は、パネルの賃貸借契約期間が過ぎた時点で、下記の■【表B】の固定価格で弊社にパネルを売却していただきます。契約期間終了後、パネルを売却すると■【オーナー様】の収入は下記ようになります。

■【表A】/ソーラーパネル1枚当たりの賃料(消費税別)

賃貸借期間	年間賃料(円)	賃料総額(円)
12年	2,000円	24,000円
15年	2,200円	33,000円
19年	2,500円	47,500円

※(年):申込日からの年数

■【表B】/ソーラーパネル1枚当たりの買取価格(消費税別)

経過年数	買取価格(円)
12年経過時	16,000円
15年経過時	10,000円
19年経過時	500円

※(年):申込日からの年数

■【オーナー様の収入例】(契約終了後、パネル1枚当たり、消費税別)

賃貸借期間	購入時(円)	賃料総額+売却総額(円)	購入時よりの増加額
12年	35,000円	40,000円	5,000円 14.29%増(年1.19%)
15年	35,000円	43,000円	8,000円 22.85%増(年1.52%)
19年	35,000円	48,000円	13,000円 37.14%増(年1.95%)

契約期間終了後、
パネルを売却すると
オーナー様の収入は
右ようになります。

3つの安心

運用実績があります。2014年、2016年募集(いずれも完売)。年1回のオーナー様への報告を含め、安定した運用を続けております。

25年間の
パネル製品
保証

今回ご購入いただくすべてのパネルには、メーカーによる25年間の製品保証がついております。不具合が生じた場合でも、代替パネルと速やかに無料交換いたします

損害保険に
加入

メーカー保証とは別に国内大手の損害保険に加入しております。万が一事故などが発生した場合でも、パネルオーナー様のご負担は一切発生しません

名義変更も
可能

発行する「借受証」が相続対象となります。名義変更の手続きなどを行うことにより、パネルオーナー様の引き継ぎが可能な仕組みとなっております